

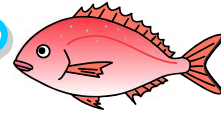
統計アラカルト

熊本の統計情報 平成25年9月27日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

魚は好きですか、嫌いですか？

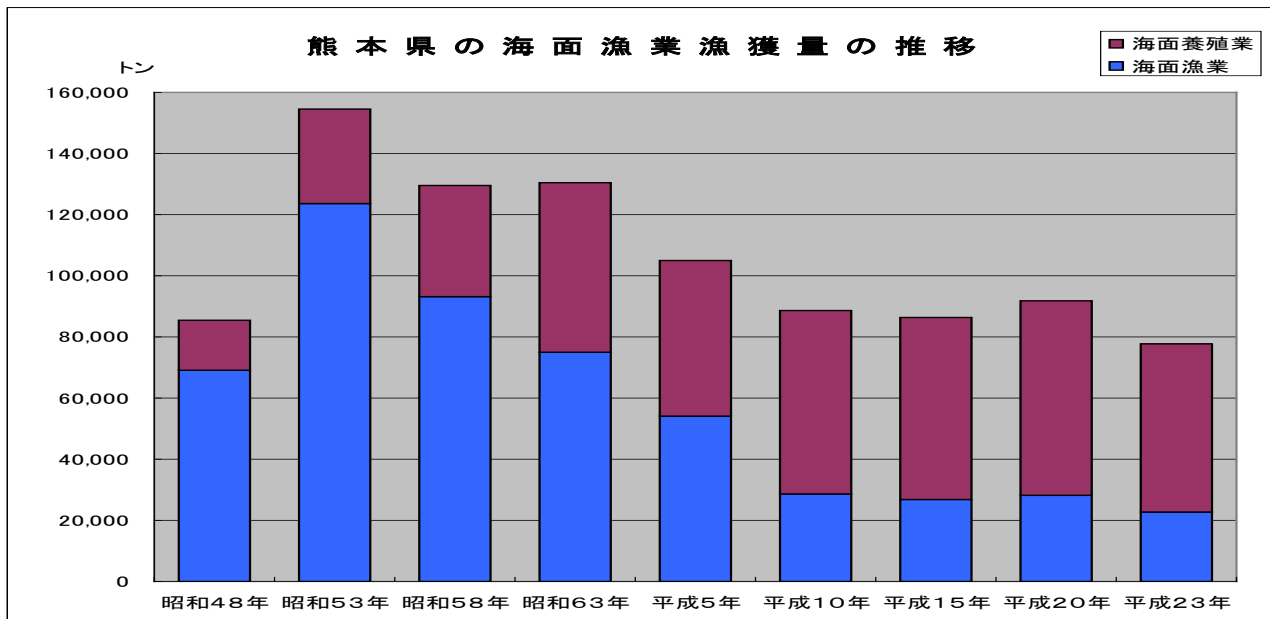


熊本県は、日本最大の干潟を有する有明海、内湾で東シナ海に湾口を開く八代海、対馬暖流の影響を強く受ける魚の宝庫天草灘の3つの海域に面し、それぞれの漁場に様々な漁業が行われています。

しかし、近年、日本人の魚離れが言われており、魚介類の消費量を平成23年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省）で見ると、1日1人あたり73gとなっており、一方、肉類は84gで魚介類より多くなっています。また、漁場環境の変化や水産資源の減少、赤潮による被害発生など漁業を取り巻く環境は厳しい状況になっています。

このような中、本県では、「育もう命かがやく故郷の海」をテーマに第33回全国豊かな海づくり大会が10月26日から27日にかけて開催され、式典行事や大会史上初めてとなる3会場（エコパーク水俣、熊本港、牛深漁港）で稚魚等の放流行事が行われます。

そこで、本県の海面漁業状況を「漁業・養殖業生産統計年報」（農林水産省）から見てみましょう。

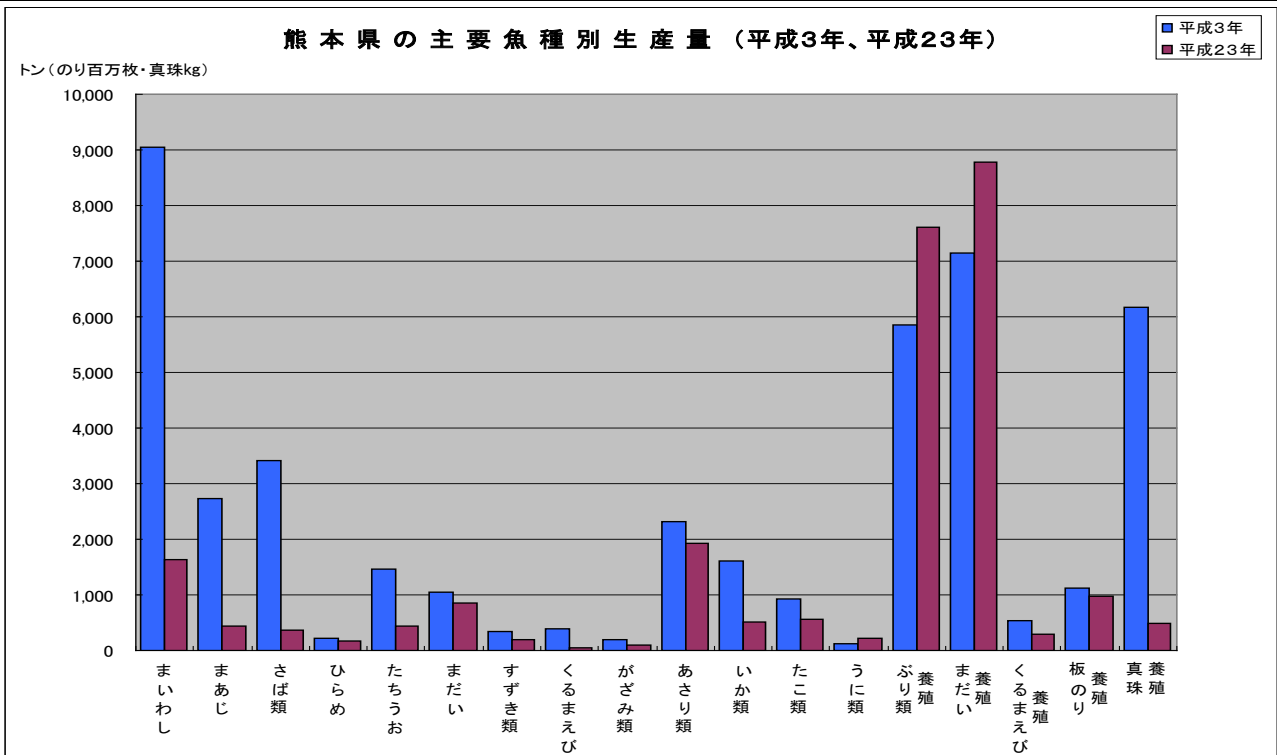


海面漁業の漁獲量は、昭和50年代から平成10年頃に急激に減少し、そのかわり海面養殖業は増加しており、ここ10年ほどは落ちついていきます。

では、主な魚種別の漁獲量の変化を平成3年と平成23年で比べて見ましょう。

次のグラフのとおり「いわし」は、9,046tから1,644tと約6分の1に、「さば類」は、3,420tから363トンと約9分の1に、「まあじ」は、2,730tから434tと約6分の1になっており、養殖の「ぶり類」、「まだい」が増加しているのを除き減少しています。

このような漁業の現状を的確に把握するため、今年、漁業の国勢調査といわれる漁業センサスが実施されます。



漁業センサス

2013年漁業センサス を実施します

日本の水産行政施策の推進のために役立てることを目的とした統計調査です。
日本の漁業の生産や就業の状況、漁村や水産物の流通・加工業の実態を把握します。
5年ごとに水産業を営んでいる全ての世帯や法人を対象に全国一斉の調査を実施します。

調査は、平成25年11月1日現在（流通加工調査は平成26年1月1日現在）で実施します。

10月下旬から11月上旬に水産業を営んでいる全ての世帯や法人に、調査員が訪問し、調査票の記入のお願いや記入状況の確認及び調査票の回収を行います。

調査員は、「統計調査員証」を必ず携帯しており、厳格な守秘義務が課されています。

また、調査した内容は、統計法によって厳重に保護されており、統計の作成や他の統計調査に係る名簿作成以外の目的には使用しませんので、ご安心ください。



画像をクリックすると農林水産省の漁業センサスのページにリンクします。

熊本県の統計情報は「 <http://www.pref.kumamoto.jp/site/statistics/> 」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、10月25日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒869-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp